

## 卵胞リザーブ

育種改良を早める為には、牛群で一番育種改良が進んでいる育成牛に性判別精液を授精して後継牛の確保していく事が良いとされています。また繁殖機能に重要な卵胞リザーブ（原始卵胞）を多くする理由からも育成牛からの後継牛確保が良いのではないかと考えられ書かせて頂きます。

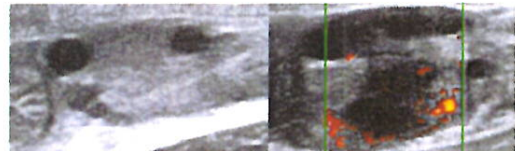
### 卵胞リザーブとは

胎児期に原始卵胞は 700 万個になるが出生時には 200 万個まで減少するとされています。正常な卵母細胞有する原始卵胞を「卵胞リザーブ」と言います。

卵胞リザーブの数は胎児期の 80~130 日の妊娠期間で決まっており年齢とともに減少するが、牛によって大きな違い（新生児で 1~25 万個の差異）が見られます。

遺伝率は 0.25~0.35 と推定され遺伝による影響もありますが、妊娠牛の栄養不足、乳房炎などによって卵胞リザーブが減少するとされています。

図のとおり卵胞リザーブの数が胞状卵胞の質と量に関係があります。胞状卵胞が少ない牛は、多い牛と比べ初回受胎率の低下や黄体ホルモンの血中濃度や卵子の発生能が低く、子宮機能の低下が見られると報告されています。



採卵牛などで調べられている「抗ミュラー管ホルモン」は原始卵胞～初期胞状卵胞で生産されるホルモンを調べたものです。

最初の話に戻りますが、育成牛は乳房炎リスクがなく経産牛と比べ栄養管理がしやすい事を考えると、育成牛から後継牛の確保する事が卵胞リザーブの多い牛を増やせるのではないかと考えられます。

おおた



図1 卵巣内における卵母細胞の発育と卵胞の発達過程